

平成 28 年度 第 1 回菊川市男女共同参画推進懇話会及びプラン策定委員会 報告書

年 月 日	平成 28 年 6 月 2 日 (木)	場 所	菊川市役所 2 階庁議室 19:00~21:00
検討事項	(1) 平成 27 年度・28 年度の取り組みについて (2) 第 3 次菊川市男女共同参画プランの策定について		
<p>(1) 平成 27 年度・平成 28 年度の取り組みについて (報告)</p> <p>【事務局】 平成 27 年度プランの進捗状況、小学生への職業講話、絵本の読み聞かせ事業、地域における女性の防災講演会について</p> <p>●委員の皆さんより</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進捗状況で ID の 18 番「性と生殖の健康・権利に関する啓発」が今後の方向性で「廃止」になっているが、世界女性会議の第 4 回の北京会議で、かなり強調されて大事な部分だと感じ取っているが。 ・最近なかなか聞かなくなった。その辺の両立がなかなかはかりにくい。 ・難しい言葉。産むか産まないか。大切にしていけないといけなが踏み込みにくい部分。 ・そこをやっていくと人権問題や、いろんな問題に関わってきて。だからこう、言うに言えないというか。言うと叩かれてしまう。 ・産まないと悪いのかというところまでいってしまうので、とても難しい。 ・根底としては大事なことであると思う。 <p>(2) 第 3 次菊川市男女共同参画プランの策定について</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 第 3 次菊川市男女共同参画プランの策定スケジュール ② 第 2 次菊川市男女共同参画プラン総括 ③ 第 3 次菊川市男女共同参画プランの骨子について <p>【事務局】 ①第 3 次プランの策定スケジュール、②第 2 次プランの総括について</p> <p>●委員の皆さんより</p> <p>(第 2 次プランの総括について)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろ私たちが、こうなったらいいと話をしていたことが、積み重なってきていると思う。 <p>(男女共同参画の取り組みについて)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災フェア in きくがわが開催されたが、男女参画がそれに間に合わなかったのが残念。来年また予算が付いていると思う。防災の関係で 10 ヶ年、5 ヶ年かけて立て直してくださいとなっているので、防災関係結構お金があると思う。補助金の説明会があるため、必ず防災の関係者が無条件に参加している。男女参画予算がないと思うので、うまく使っていただければと思う。 ・防災の子ども達向けのお話し会で、三枚の御札というのをやった。その中で私たちは大人の責任ということで、大人がしっかりしていこうという、その中で子どもが育っていくということを、若いお母さんにもお父さんにも子ども達にも知ってもらおうという想い。防災フェアがそういう形でやるということを知らなかったの、声をかけていただき、すごくよかったと思った。 ・今回、午前中の講演で小谷村の村長さんがお話をされていた。それを男女共同参画の関係を入れてもいいのでは。 ・情報提供だが、静大に防災道德の専門の藤井先生という先生がいらっしゃる。新聞にも載っている。いろいろ展開しているので、また機会があったら要請されるといい。また、授業を受けた生徒たちも同じように授業が出来ると思う。幼稚園での防災道德を見た。紙芝居。今先生が忙しくて、かなり他県に出張しているようだが、取り組みとしては具体的でおもしろい。こういうときにどうするかなど、子ども達にわかるような話。プログラムをしっかり組んで市町でもけっこうやっていると思う。 			

- ・今回の熊本地震について一番先に起きた大きな地震を受けた益城町は男女共同参画宣言都市だが、女性が立ち上がるのが遅かったそう。とても気になった。

(男女共同参画に関する市民アンケートと重点目標の関連について)

- ・重点目標の達成度をアンケート結果からどういう風に見えるかと思い見てみたが、やはり男は仕事、女は家庭というのは非常に気になった。例えば、ワーク・ライフ・バランスを見ると、希望としてプライベートを優先したいと答えているのが男性のほうが女性より 5.3 ポイント高くなっている。もうひとつは女性の、家庭生活優先と答えた人の割合は、女性のほうが男性より 7.6 ポイント高い。希望として、何を言いたいのかというと、男性はやはり、プライベートを優先しているということ。女性はやはり家庭が入ってきている。というのは、この辺の潜在意識に、性別役割分担意識というものが何か染み付いて残っているがゆえ、こういう数値に表れているのか。それが気になった。
- ・セクハラとドメスティックバイオレンスで気になったのが、テレビや新聞などで問題になっているのを知っていると答えた人が 5 年前に比べ 10.8 ポイント下がっている。セクハラも DV も。テレビでの PR 度が少なくなったのかと。DV やセクハラが減っているとは思わないが、だんだんそうやって意識が薄れていく方が心配。
- ・まだまだ日本の社会は長時間労働や残業が多い。ここがいちばんの課題。ただ、女性の意識が変わってきたのは、子育てが終わったら働こうという数字より、このまま働きたいという数字が伸びてきている。この辺りの意識が変わってきていると感じる。昔は一回やめて、再就職でいろいろな就業支援や、起業支援をとという発想があったが、今の若い方々はむしろ最初から働いて、そのまま働きたいほうが数字的に上がってきているのかと。ということは、M 字カーブも右よりになり、変わってきているという。それを市民のアンケートから見ていくと、重要施策と比べていくとおもしろいし、課題も明確になってくると思う。また、やはり「介護より育児を」という数字が高いのも印象的だった。
- ・家庭生活の中で、むしろ専業主婦より働いている人のほうが、家事を一生懸命やっているという。それは自分のことからも言える。「そうまでして働きたいのか」と私はよく言われてきた。女はちゃんと家の事もやって、仕事もやって、という風にしないと非難されるので、一生懸命やって出てくる。だから、専業主婦よりもむしろ家庭生活に関わること、いわゆる家事をやっている時間が長いということは、もうかなり前から統計的に出ている。
ワーク・ライフ・バランスで本当に確実な理解、あるべき姿が示されるものなのか、とても難しい。強調の仕方によっては働くほうを優先に出してしまっ、子どもが置き去りになってしまう。
- ・そのバランスを子育てで支援から考えるか、労働力の面から考えるかで、全く違ってくると思う。その辺りの矛盾、「女性も働け、働け」という中に矛盾点を感じる。
- ・平成 10 年頃、オランダモデルとして 2 : 1 → 1.5 : 1.5 にしようという一つのモデルが示されたときがあった。それだとわかりやすい。働くバランスが男 2 : 女 1 という時代から男 1.5 : 女 1.5 のバランスに。その代り、お互い 4 時には仕事が終わって家に帰るとい。そのようなひとつの方向に向けていたが、未だにそこまでいっていない。
- ・数字的にはかなり、徐々に変化はしていると思う。職場環境も。それは感じている。
- ・3 歩下がるか 2 歩下がるか。そのように動いているとは思。

(介護、高齢者施策について)

- ・介護のところ。以前菊川町でやったときも、老い方というものがあ。美しく老いていくというもの。長寿介護課が出している取り組みで男女共同参画を意識しているのか気になった。シルバー人材センターの話が出てきたりしている。男女が共に生活しながら最後まで老いていくというところ、介護を女性に任せていたものを、そうではなく男女でやっていくというような。そういう姿を想像していたが、それとは違うと感じた。
- ・最近、男性も介護の為に退職をするという数字が増えている。家庭に全て任せるといことについて、

今集中している。このままで良いのかということ。やはり、そのときの人口や社会状況によって変わっていくのではないかと思う。

- ・主任児童員というものをやっており、民生委員の会合に出席しているが、この3年、男女共同参画という言葉が福祉課からも長寿介護課からも、社会福祉協議会の挨拶の中からも一度も聞いたことが無い。あえて男女共同参画とかではなく、女性らしく男性らしくではなく、人としてどう生きるか、ということと言うと、「また言い出した」という感じになる。中身は一緒だが、もう少し男女共同参画を意識した取り組みというものを、やってもいいのではないかと思う。
- ・長寿介護課がやっている事業が悪いというわけではない。そこに男女共同参画の視点を入れて欲しいという話。老人クラブの活動を支援するということが目的ではなく、その中に男女共同参画の視点を入れながら、男女でそのような活動をしていくという方が大事。そこをはき違えてしまうと、これでやったからいい、となり、一番大事な部分が抜けてしまうと思った。

【事務局】③第3次プランの骨子について

●委員の皆さんより

(基本理念についての意見)

◎「女（ひと）と男（ひと）」という表現について

- ・男性、女性という表現をせずに、「女と男がお互いを認め合い…」という表現は意図的なことか？
- ・【事務局】意図的な表現。今回からというものではなく、第1次、第2次でずっと続けてきた表現で、「女と男」と書いて、「ひととひと」と読む。今まで、基本に掲げてきたので、あえてこのような言い方をしている。
- ・1次と2次はここから検討したが、かなり推進してきたので、それを通して分析したうえで今回の提案ということになっている。以前は、女（ひと）と男（ひと）という言葉を作るところから始めた。
- ・女と男を「ひと」と読むとは普通の人は思わないので、括弧で「ひと」とつけて欲しい。また、「自分」と書いて「ひと」と読ませたらどうかということをご提案させていただきたいと思った。今のように丁寧に説明を受けると、互いにおもいやることなど、素晴らしい意見が含まれていることを私たちは耳で聞いてわかっているが、こういうものをぱっと見た方は、「女？男？自分らしく？勝手に生きていいのかな。」とってしまう可能性がある。検討いただいて、ルビや括弧は必要だと感じた。他市は「男女（だんじょ）」という表現を使っているので、菊川は先端を行っていると思った。
- ・基本理念がとても大切なところであるので想いというのが皆さんあると思うが。「女（ひと）と男（ひと）がお互い認めあい」と言うのは、個人ではなく大きく捉えられていて、では自分はどのようなのだろうかとかというところで「自分らしく」とつながる。

◎「自分らしく」という言葉について

- ・「自分らしく」という表現を見て安心した。ワーク・ライフ・バランスで、女性の職場への進出ということがすごく大切と言われており、それは良いとは思っている。しかし私は、子ども達が小さいときに、家にいて子ども達が帰ってくるのを待っていたい、ご飯を作ってゆったりとした食事をしたいと思っている。家庭生活で、そのようなところに幸せを感じて過ごしてきた。仕事を持ちたい女性もいるし、家庭に入って家庭のことをめいっばいやりたいという人もいるので、自分がやりたい方を、自分に合っている生活を選んでできるかという思いを持っている。管理職や大きな企業で一生懸命働く女性は、それを邪魔されるということは大きな問題になっているが、小さいところで、女性も男性も自分のやりたいことが選べる社会。男性も外で働くほうが好きだという人、子どもと過ごすのが好きだという人もいると思うので、それを自分で選んで生活できたら良いと思っている。このプランを見たときに、とてもそれを感じることができ、良い言葉だと思った。
- ・「自分らしく」という言葉→選択肢があるということ。

- ・家の中に閉じ込められていて、不幸せと思っている女性ばかりではない。家庭に入ることが幸せと感じている人もいる。世の中全体で、女性の社会進出ばかり叫ばれているが、子どもを預けて働くことが幸せではない人もいる。そこに不安を感じている。
- ・「自分らしく」という言葉は個人的にはとてもすてきな言葉だと思っている。介護の仕事をしていて、認知症の方のご家族の方とも接する機会もある。家族の顔を見ても、親子だとわからなくなっている方の娘さんが、「どんな状態になっても母らしくいてほしい」と言った言葉がすごく印象に残っている。「人らしく」もいいが、「自分らしく」の方が、個性が入っていて、とても良いと思った。
- ・男女共同参画が労働力確保としての男女共同参画であったら、働く・働かないの選択も夫婦で話し合ってお互いの意見を尊重しあっていくのも男女の参画だと思う。いま見ていると労働力確保のためになっているように感じる。
- ・今の政府がそれを主張しすぎている。今の女性活躍という言い方の中で、労働が「税金を払ってください」という風に聞こえてしまう。問題は、実は女が、働いている私も本当は、ほんわかと育てたい。心をいっぱい子どもと置いて働いている。外も内も欲張っている。
「らしく」という言葉は、皆さんからいろいろ意見が出ると思った。否定するものではない。どのような生き方でもいい。ただ自分勝手ではないということはしっかり伝える。「らしさ」を下手に強調しているかのように取る人もいるので心配をしている。しかし、皆さんは、目指す方向の「らしさ」を話してくださっている。
- ・自分らしくの中には、多面性を持ってよしとするという意味が含まれているのは、とても大事だという事を踏まえたくて、「自分らしく」という言葉を入れていくというのが大事なことだと思う。
- ・要するに基本理念をそういうところでしっかり表現していけば良いのでは？「これはこういうものを目指すものです」と。そうすれば誤解は免れる。
- ・今までのある一定の価値観があるが、その価値観で誰が決めたんだという話になる。ただ多様な価値観がすごく難しい。それを認める社会を作っていくということがこれから大事だと思う。働きたい人がめいっぱい働けるし、ゆとりを持って家族生活を楽しむという家庭もあったり。男性もそういう方向にシフトする人がいても良いという風に、まさに「らしく」という。説明がなくてもいいのかもしれない。私がこれを読んだときにも「らしく」という言葉が一番気になった。問題提起にしながら使うもの方法。
- ・私が現場でやっている頃からすでに「らしさ」と言う言葉はよく使われていた。女の人が勝手言うみたいな意味で。
- ・あえて菊川市はそうしたという形。
- ・「自分らしく」という言葉はいいと思った。今、世の中の流れがどちらかというと「自立しよう」という方向で、法律などで障がいのある人も段々生活しづらくなっている。「自分らしさ」という言葉を使うときにあまり「自立」を強調すると、お互いがヘトヘトな生活になってしまうのではないかと。「強くなる」ということではないのだということプランの中に入れてくれると良いと思う。
- ・菊川市の目指すところが、お互いに自立して支えあうという形。あくまで自身の充実があって、お互いに足りないところを補っていく。依存するという事ではなくという感覚でやってきたと思う。
- ・「自分らしく」とはどういうことか、自分勝手に生きていいのか、と聞かれたら、私たちここの代表であるので、皆のお手本になるよう努めていく。
- ・いちばん最初のところで、みんなに疑問を持ってもらうのもいいのではないかと。一目見て「なんだこれは。」と思えばだんだん下の方を見ていくという形。読んでいくことで、「こういうことを言っているのか」と理解していただければ。最初から詳しく書いてあるよりも疑問を持ってもらうほうがいいのではないかと。
- ・これから育つ若い人たちが自分らしく暮らすことのできるまちづくりが理解できるようなになれば。
- ・国のニュースで色々飛び込んでくる女性の管理職等のニュース聞いていると、社会に出てバリバリ働く

だけが人生ではないのに、と、思っ、とても苦しくなる。でもこれを読んで今共通理解したように、お互いが人と人、男性か女性ではなく女性同士でも「あなた子育て頑張っていて素敵」とか、地域で何かやっている姿などそういう姿を認め合うというところが、心にスーッと入ってきた。

「自分らしく」というのも、ずっと流れがあるということもわかり、勝手ではなく、いろいろな人の、人として生きる、生活する上で、認め合っ、という意味で素晴らしいなと思った。

- 女性が働くことも選べる、家庭に入ることも選べる、ということだが、うちは両親が共働きであった。どちらの収入も低いと、働かざるを得ない状況になってしまう。その中で、どのように女性の自分らしさを追求する生き方が出来るか。男性も最低限の生活をしつつ、自分らしく生きるための生き方を探すがすごく難しいと思った。それでも自分がすごく幸せに育てられたと思っているので、お互いの協力の上で成り立っていくのかなと思っている。男女を差別ではなく区別して、女性にはこういう事が向いているとか、らしさではなく、そのような部分で男女を分けていけば良いと思っている。
- それぞれが本当に自分らしく生きるというところで1つの選択肢があっ、働くことやキャリアを積むという生き方もあるし、そこでもし障害があつたらそれを乗り越えるのではなく、平らにする、バリアフリーにしていく。その辺の男女共同参画の考え方をしっかり持ってやっていくのが大事だと思う。どっちが良いというわけではなく、選択肢があるということがとても大事。そういう中でかつては女性が働き続けるためには相当な障害があつた。それをバリアフリーにしていくのが男女共同参画の中でとても大事な部分だと思った。そこに力を入れていくのが大切なこと。どちらかを美化してどちらかを美化しないというのではない。それぞれが自分の使命を持ちながら、しっかり勉強しながら進めていくべきだと思う。菊川町のときは、気づきからやっ、と話し合っ。男女共同参画という言葉があっ、この言葉がこれから生きていく社会を作り上げるのに、必要な言葉であり、大事だと気づいていこうというところから始まった。
- 男女共同参画という言葉にすごく窮屈さを感じ、正直なところ男女共同参画とは何か、色々な人の色々な考え方があっ、今みたいに働く人が立派で、優劣ではないが社会の中には感じていらっ、る方もあり、男女共同参画と言われるが、目指すところはどこなのだろうかといつも思っ。言葉もいろいろあると思うが、「自分らしく暮らすことができるまち」とストレートにまっ、自分はいっ、いどのような人生を求めて生きていけばいいのだろうか、そのような部分の投げかけにもなるだろうし、単刀直入にわかりやすい言葉ではあるが「らしく」という部分が効果的に効いているのではないかと思っ。答えではない部分もあるのではないかなと思っが、夫婦間で話し合っ、それぞれの安心できる役割があつたりしながら、助け合うことができるまちづくりになればいいのではないかと思っ。素敵な表現だと思っ。
- すごく良い言葉だと思っ。自分の家族を例にとると、妻が働いているが、今シフトで昼に働いて、これから夜、人数が減るから夜10時くらいまで仕事に入らないといけ、という状況になっている。妻の心の中でどうしようかなと思っ、妻に言われたことは「あなた早く帰ってくるから子どもの勉強をみてよ。」と。僕は出来ないから、皿洗いはする、掃除はするが。「子どもの勉強は見られないでしょ。」と言われている。今は、子どもに勉強はさせるけれども、お父さんの言うことは聞かない。そこでこの資料を見て、「自分らしく」じゃないが、ここは折れて自分もやらせないといけ、かなと思っ。自分が勉強してこなかった人間なので、どうしてやればいいのかと葛藤がある。子どもの横に座っているのが、それだけじゃ駄目だと言われる。子どもに「何故ここはこうなるの？」と聞かれたときに、自分の考えで言っ、と、頭の中にこういう式があるのでこうなのだというのが、それが子どもにはわからない。
→環境を整えてあげれば。お父さんが勉強を見てあげるのではなく、テレビ消してお父さんが横で新聞読んでいけば。その姿を見て子どもが勉強する、それこそ家庭教育だと思っが。
→テレビは消している。ご飯食べるときも当然。勉強しているときも、自分も横に机を並べて勉強して

いる。そういう姿を見せなければいけないから。そこまでしているが、妻から言わせると、そこが出来てないと言う。

→それで十分だと思う。えらい。胸張ってほしい。とても真似できない。その部分で奥さんがまだ期待しているのがすごいこと。

→ここに来る前は男女共同参画なんて、妻はこれっぽっちも思ってなかった。何年かやっているうちに家の中がその通りになっている。立場が逆転している。

→委員の1人がこの会に参加して、この菊川の大事な次世代を担う若者の夫婦がそういうことに目覚めて素晴らしい事例。

子どもさんが「うちのお父さんがこういう事もやってくれるよ。」と伝えて、どこかで発信はしていると思う。

◎その他の意見

- ・イメージとして、型にはまったような形だと感じはしないかとか、フレキシブルという部分は男女共同参画には非常に重要な部分だと思う。こうあるべきという問題ではなく、やはり皆で模索しながら、まさに創っていく部分だと思う。しなやかさとかフレキシブルさが入るといいなと思ったが、難しいところ。心の中に皆さん持っていていただければ。

- ・いろいろな言葉を入れようとしてしまう。

- ・目指すところがどこなのか見えないという意見に対し、皆さんどう思っているのかなと思った。

→女と男が互いに認め合うことができる社会を目指す…というところになるのか。

→では、後、何すればいいのかとなって。基本理念に向かって。

→それが全て人権問題に繋がって、生き様に繋がっていく。

→理念、コンセプトがしっかりしていれば、あとは肉付け部分で、固めることが大事だと思う。

→おっしゃるとおり。そこが皆さんで納得、合意できれば。あとは施策を割り振っていくとう形になる。

(冊子の構成について)

- ・冊子についてだが、概要版になると基本理念が分かりにくくなってしまっている。基本理念が目指すものなら、それをわかり易く。体系図の大きいほうもそうだが、目標は誰が見てもわかるほうがいいかなと思う。

- ・理念をもっと大きくして、テーマを示した方がわかりやすい。これだと何が一番なのかが、わかりにくい。

- ・「男女共同参画」という言葉にアレルギーを示す人もまだいる。またこれからレイアウトを考えていくときに、皆さんにわかってもらえるような作り方をしていく必要がある。

→【事務局】冊子のレイアウトの話になるので、実際できたときに注意をしながら作っていく。もっと皆様にわかり易く伝わるように工夫する。

(3つの基本目標、10の基本施策について)

- ・どうしても硬い言葉になってしまうのは仕方が無いが、「人権の尊重」が入っているのがすごくいいと思った。「様々な困難を抱える人」で、多面的で障がいなどハンディを持っている人なども含まれていて良いと思う。

◎「(3) 男性にとっての男女共同参画」について

- ・「(3) 男性にとっての男女共同参画」で、他の項目は男女という表記であるのに、あえて男性を強調しているのはなぜか。

→【事務局】前のプランと何が変わったのかというところで、男女共同参画といえば当然男性と女性両方と捉えられるので、「男性だけ？」と少し疑問に思ってもらえるかなという狙いがある。内閣府としても

男女共同参画と進めているが、内容的には新しい部分が無い。具体的に言うとイクメンとか料理教室とか従来のものばかりになっている。新しく何かを始めるといのは、現状では正直言って候補としてはあがっていない状態。今まで男性の意識啓発や男性の家事の協力、職場のワーク・ライフ・バランスなどを抜き出して持ってくる形。あえて男性向けの項目を事務局案として挙げている。

→今回の国の計画の中で、一番中心になるところで、「男性中心型労働慣行の変革等を通じて男女共に充実した職業生活、家庭生活その他の社会生活を送ることが出来る社会」ということを一番強調した。要するに、同一賃金の労働だと安倍さんが盛んに言っている。私は反対だが。実は最初から男性と女性は格差がある。今も賃金を比較すると100対70くらい。それをずっと言い続けている。今、安倍さんが言っているような、同じような働き方をしたらと言うのは非常に中途半端。今更と思って聞いている。要するに社会全体が男性の働き方、男性中心型労働慣行等の変革、つまり深夜にわたるまでの労働で男性を縛りつけるのをやめるよう、国は形の上では強調した。同一労働同一賃金と同時に、早く家に帰すということでワーク・ライフ・バランスに繋がるということを盛んに言っているわけだが。実際に社会制度とか賃金制度が成り立っているかという、決してそうではない。そちらにおんぶにだっこせざるを得ない。家に帰ってきてやりたいけれど、なかなか出来ない。その辺を是正していくようにと言っていたが。だからここで、あえて「男性の」という言葉が出てきて皆さんも何か反応するかなと思っていた。

「男性にとって」という言葉が、もしかしたら難しいかもしれない。

→今の社会が、基本的に男性社会に女性の参画が乗かってしまったみたいな形になってしまっている。

深夜労働なども男性と同じように女性もやればというもの等。それはやはり違うのでは？と思った。

→私のところもそうだった。帰りは夜12時だった。

→男性のそういった部分の改革も必要。

→男性が家に帰りやすい社会にしようということ。

→昭和20年代のがんこ親父の意識を変えるための参画ではなくて、社会全体の意識を変える参画であるべき。

→男の人中心の制度というのが問題。

→女性の雇用比率を上げるといって、それにより男性の雇用のあり方も考えないといけない。

→だから「参画」という言葉を使った。下働きはするけど企画の段階から女性を参画させることはしていなかった。参画というのを、それまでは参加型とか参加と言っていた。その前は進出。進出がいちばん古い言葉。

・男性の意識改革で、夜遅くまで仕事していれば頑張って一生懸命仕事していると評価されたいと思うと思う。その意識改革なのか、制度的な改革なのかがわからない。男性自身が気づき意識を変えれば、自分たちが意識変えれば出来ることなのか、制度が必要なのかということだと思う。行政としては制度を変えるための意識改革なのか。私たちのような会社は、仕事の量を自分で自由に決められる、自分たちの責任で。その辺がどうなのか。例えば、会社が制度を1つ変えられるというのは、週休2日制。過去、労働時間が週何時間というのがどんどん短縮されてきた。うちはそれに対応するために週休2日制にした。それまでは土曜日に出ていた。それが、制度で出来るということ。あとは、早く仕事を終わらせて早く帰ろうという意識なのかとも思ってしまう。ずるずるやっつけてしまっているかもしれない。そういう意識を改革すれば変わるかもしれない。

→【事務局】意識と制度の両方。日本の現場は世界で見ても効率が良いが、ホワイトカラーはいちばん効率が悪い。ダラダラ残業してもそれなりに成果が出て、人件費は他の倍かかっているがそれが評価されて、昇進したらやめられなくなる。意識ではわかっている、上に行きたいと思って仕事をするのも「自分らしく」ということになる。制度も総労働時間で見るようにし、「一年間でこれだけ出来てもあなたは他の人より残業たくさんやっているから駄目ですよ、評価しませんよ」というように制度が変われば、当然意識も変わる。セットで考えていくべきものだと思う。国、県、市市町村という括りの中で、市町

村が制度を変えるのが現状では厳しいので、住民の皆さんの意識に働きかけるのがいちばん大きなところになっていくのかなと思う。

- ・男性にとってというのは大事だと思う。今まで男女共同参画といえども「女性、女性」で、きているわけで。男性もだいぶ参画し始めている。子育てとか、本当に男性も変わってきている。しかしそこをもっと位置付けて社会自体が変わっていかないと、やはり男性変わりきれない。17時に終わって皆帰ってくるような社会作りができないと。だから男性にとってもう一回考えてみようというのはすごく大事だと思う。男性社会を考えてみても。
- ・「参画の推進」だと大きすぎる。「参画の意識の醸成」とかそういう表現にしていけないと。
- ・社会情勢はどんどん変わっている。今の活躍推進法では、女性の労働力だけ期待しているみたいで、そこはやはりまずいのではないか、表向きだけで終わってしまうのではないか。だから、その裏付けとして、皆がしっかりと意識を持つことが根底に無いと、本当の意味の男女共同参画がどこかに飛んでしまう。国がやりやすいようにただやっているだけ。ぜひそこを頑張ってください。意識がすごく大事だと思う。
- ・このまま使うと、「共同参画推進への意識」という言い方でもいいのでは。又は「共同参画への意識の醸成」にする。やはり「男性のとしての男女共同参画の推進」だと漠然としている。

◎「(4) 政策や方針決定過程への女性の参画の推進」について

- ・下のほうを見ると「女性の改革」というのが出てくるので、「女性」という言葉を前に出して変えればお互いにいい。「(4) 政策や方針決定過程への女性の参画の推進」で「女性」を前に出せば、違和感なく読めたと思う。そのほうが(3)が「男性にとっての」となっているから、男性も女性もお互いに、という意味で良いと思った。

→平成28年の今は、男性にとっての男女共同参画の推進、今だからこその言葉が基本施策の中に必要であるかと考えたときに、将来10年20年経って、「こういうときがあった」と笑ってられる時が来るのを目指して、やはり「男性にとっての男女共同参画の推進」、「女性の参画推進」というものを入れておくのは大事かもしれない。

→その意味で、「女性」という言葉を前に出すのは大事だと思う。

「男性にとっての共同参画」の「共同参画」という言葉の意味が何かということをもう少し説明されていると良いかもしれない。

- ・(4)は、「女性」を頭に持っていくということでもよろしいか。「女性の政策や方針決定過程への参画の推進」という形で。そういうことで男性にも配慮し、女性にも配慮している菊川市のプランということで。

◎今後作成していく各項目の施策について

- ・この後の男女共同参画の推進というのは、アドバイザーが言われたように文章が長いから完結にしたものや、もう少し噛み砕いたようなものはあるか？第2次のプランの方にはこの表現はないが。

→【事務局】正直言って、この基本施策に実際ぶら下がっている事業が、これから担当課を交えて積み上げていくが、果たして1つの施策に具体的な取り組みを入れ込んだときに、この言葉と合うのかどうか。また皆さんに検討いただく必要がある。

- ・料理教室をやったからといって意識改革になったという形はやめて欲しい、などという話し合いは事務局とした。地域支援課がどのように男性向けの啓発事業を展開するか。国が第4次の計画で出していることであるので、国からお尻を叩かれることもあると思う。

→意識を変えるにもいろんな方法がある。料理教室以外にもいろいろあると思う。

(3) 講評（男女共同参画推進懇話会アドバイザー）

(子どもの愛着障害について)

- ・2、3日前のNHKの朝の番組でやっていたが、1歳までの間に優しくしてもらったり抱っこしてもら

ったりという経験がない子が愛着障害になる。これは私が現場にいたときに「マターナル・デプリベーション（母性剥奪症候群）」という言葉で使われていた。これが一旦社会から消えたが、また愛着障害という言葉で登場した。実は認定子ども園、ワーク・ライフ・バランスがこれに関わってくる。とにかく働くために子どもを預ける。しかも0歳から大人数で。そのような問題が芽生えてきているのではないかとということで警鐘を鳴らしたのではないかと思っている。社会というのは、どちらかにエンジンがかかればそちらに動いていく。だから今、このような言葉が出てきたのではないかと思う。静岡市が、日系 DUAL「共働き子育てしやすいランキング 2015（地方編）」で1位になった。しかし、静岡市内の人にとってはまやかして、待機児童0というような言葉の中で、「とにかく働け」という色が非常に強い。それに都合よく振り回されなくて、男女共同参画ということを、しっかり胸において、子どもにとっても大人にとっても良い社会を求めていかなければいけないと思う。「子どもが置き去りにされていないか」という記事が新聞などあちこちに出てきた。そのことも心に置きながら、男女共同参画を推進していかなければならない。

→愛着障害にはスキンシップがすごく大事と聞く。

・早寝早起きも大切。保育園では3時間お昼寝するがその子どもは22時過ぎにならないと眠くならないと聞く。長時間子どもを保育園で預かるとなるとお昼寝をさせないと保育園の先生も休めない、仕事が出来ないという悪循環になっている。

→保育園で3時間寝ると本当に困ってしまう。

→保育園の先生に、「昼寝が長すぎる」と言おうと思ったら、園としては「それは言わないで」と。だが、子どもにとっては、脳の働きからいったら最低だと思う。やはり早く起きて早く寝るではないと。それが一番大事だと思う。

→保育園からの連絡で、1時間寝た日は「1時間しか寝ませんでした」というコメント、3時間寝た日は「3時間寝ました。おことうでした。」というコメント。でも、3時間園で寝てしまうと、夜家で寝るのが22時になってしまう。

→静岡新聞にも連載で出ていた。

→最近はその方向に向いているので良かったと思っている。

→今日うちの文庫で15組くらいの親子、0、1歳児の親子だが、にスキンシップが大事だということを話した。